

# 数学 広島大学（前期） 数学（文系）

<全体分析>

試験時間 120 分

解答問題数

4 題

解答形式

記述形式

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

異なる分野の融合問題が多かった。

その他トピックス

数学（理系）型との共通問題が 1 題あった。

どの問題も 3 題から 5 題の小問からなり、分量が多く感じられた。

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
[1]	確率	A	さいころを 3 回投げるときの確率 $\frac{1}{a_1} + \frac{1}{a_2} + \frac{1}{a_3} = 1$ となる確率	標準
[2]	微分法 積分法	II	共有点における共通接線 3 次関数の最小値	標準
[3]	対数関数 数列	II,B	点列と漸化式 対数の不等式	やや難
[4]	三角関数 ベクトル	II,B	平面ベクトルの成分 三角関数のとり得る値の範囲	やや難

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

標準的な考え方の問題が中心であるため、各分野の基本事項を身につけ、典型的な問題については誘導がなくても解けるようにしておこう。

融合問題も多く出題されているため、単元を超えた問題演習にも取り組もう。

また、計算が煩雑な問題もあるため、普段から最後まで計算しつくすようにしておこう。